

駒ヶ根市文化財

名称	光前寺の三重塔
種別	建造物
指定	長野県宝（昭和 60・11・21）
所在地	赤穂 29
所有者	光前寺
説明	<p>この三重塔は諏訪の宮大工、立川二代和四郎富昌と弟の四郎治の手によるもので、現在南信地区にのこる唯一の三重塔である。間口 3.297m、奥行 3.297m、高さ 17.635m。屋根は三層銅板葺、初層二層は二重の繁檼(しげだるき)、三層は二重の扇檼(おうぎだるき)を用いている。これらの手法はこの塔をして、一層美的効果を高めている。</p> <p>柱はケヤキを用い円柱、側回りに縁長押(えんなげし)、半長押、内法貫(うちのりぬき)そして頭長押をめぐらす。中央の柱間に棧唐戸(さんからど)、両脇に連子窓(れんじまど)が配されている。組物は左右脇に尾檼(おだるき)を用いた三手先、その間には中備間斗束(なかそなえけんとか)を配す。二層は平三斗腰組付の縁に勾欄(こうらん)をめぐらす。</p> <p>二層は初層と同じ尾檼を用いた三手先、中備間斗束を配している。中央柱間に左右連子窓、棧唐戸。三層は二層と同じ手法であるが、屋根は扇檼を用いている。</p> <p>相輪は鋳鉄製である。また、頂部の水煙(すいえん)・宝珠(ほうじゅ)も均衡のとれた手法で、さらにこの塔の美しさを増している。内陣には塔の守護である五智如来などを安置してある。塔の真柱は八角で二層から立てられる。そのほか、各層の中備に花鳥や人物の彫刻がはめこまれている。</p>

